



世界に希望を生み出そう



国際ロータリー第2610地区
南砺ロータリークラブ

クラブ会報 **な んと**



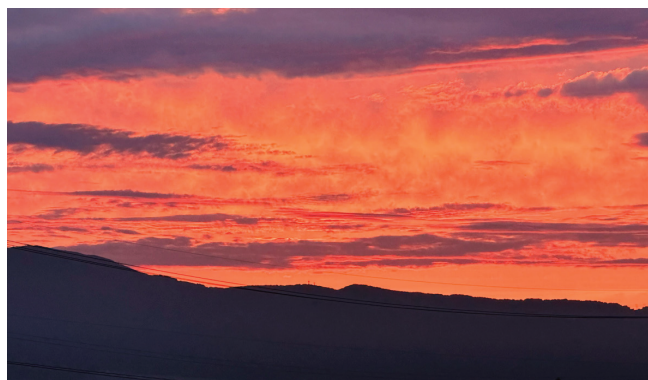
NO. 2608

URL <http://www.nanto-rc.jp>

E-mail office@nanto-rc.jp

例会日/火曜日 12:30点鐘 例会場/福光会館2Fサークルルーム1 ◆事務局/富山県南砺市福光7336-4 〆〆〆光房 ☎ 0763-53-1333 FAX 53-1334

写真撮影
写真同好会
山田清志会員



「ソングのような空」

第2669回例会 令和5年8月15日(火) 曇 27℃

〈早朝例会〉城端別院善徳寺

- ◆点 鐘 6:15 木村伊徳会長
- ◆司 会 野村 守SAA
- ◆ソング 「奉仕の理想」
- ◆ゲスト 亀渕 卓城端別院輪番

◆会長の時間

木村伊徳会長



「台風は苦い思い出が」ことは戦後78年を迎える中、特にお盆には先祖様への思いを強く感じる日であります。

先祖の方々があつての現在の自分があるわけで、自分は歳を取るたびに意識しております。生り物を家業として育ったので、毎年冬の剪定から収穫まで同じ事をやっているの、特に先祖の思いはどうだったかと思ひます。

ところで果物を生業としていて小さい時から台風については特に気になっております。昭和34年の伊勢湾台風をよく言われますが、私もかすかに覚えていますが、その台風わかりませんが、田んぼが水びたしになった思いや、お盆の前なのにアラレが降った事も記憶しております。

はがやしい事に今日の天候！台風7号が来ていまして、私にとってはこれからノンビリ墓参りどころか風雨の中ウロチョロしなければなりません。

今年は塩をナメナメの生活になるかと心配しながらの煩惱だらけのお盆であります。

本日のプログラム 8月22日(火) 第2670回例会
《夜間例会》城端5825(大工町) 「まねき」 18:00例会
担 当 片山道代会員

◆出席報告

会員数	8月15日出席率	7月11日(修正)
43 (免除1)	74. 42 % (出32)	88. 1 % (出42 内メーク8)

メーキャップ:井沢君、石崎雄君、上坂君、澤田君、船藤君、古軸君、本田君、安居君。

次回の予定 8月29日(火) 第2671回例会
義浦ガバナー補佐訪問
担 当 木村伊徳会長



◆幹事報告 尾山裕和幹事

- ①第2540地区、秋田豪雨災害支援金について。RC会員一人当たり500円の支援金。
- ②MY ROTARY デザイン変更 更に使い易くアップデート。
- ③シンガポール国際大会案内 2024. 5/25~29日
- ④例会変更のご案内 砺波RC、射水RCより。
- ⑤9/29(金)砺波LCとの親睦ゴルフコンペのご案内 世話 砺波LC、ゴールドウインにて。
- ⑥10/29(日)小矢部RC創立50周年記念式典に招待状受領。
- ⑦8月22日は夜間例会です。「まねき」 18:00

★ニつこつボックス 8/15 谷口和尋副委員長

木村君 今年のお盆、台風が近づき気はそぞろの状況です。暑い日が続き過ぎ、皆さんも大変ですね。先祖の方々への感謝が大事。

尾山君 今年も早朝例会に参加できて感謝です。

荒井君 盆前中はありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

牧 君 台風7号の影響が少ないように祈っています。

山田清君 あんころ5店舗揃いました。息子と40個は食べます!!

上坂君 「法話」楽しみです。ありがとうございます。

古瀬君 元気で善徳寺様にお参り、亀渕輪番さんのご講話。合掌

吉田実君 亀渕卓様、本日卓話宜しくお願い致します。

柳 君 台風が和歌山に上陸、こちらには大きな被害ないことを祈ります。

岩木君 すすがしい早朝例会に参加して。

松本君 7号台風がおだやかに通過しますように。

谷村實君 あんころもちを早朝(5時すぎ)から買い求めるお客さんが多くいる事に驚きました。

本田君 いつも出られずすいません。また宜しくお願いします。

川合君 台風が近づく中でのお盆の早朝例会です。ムシムシしますね。

高野君 お盆の早朝例会に参加して。

井沢君 すすがしい朝を迎えて。嵐の前の静けさならなければよいが。

湯浅君 早朝例会に参加できて感謝です。ありがとうございます。合掌

片山浩君 お盆の例会に参加して。

古軸君 お盆例会に出席して。

澤田君 旧盆の早朝、福光から城端善徳寺へ。はかま腰に向かって走る道路は、爽快です。

松村君 今年も早朝例会に出席でき、ありがたいことです。

谷口君 盆前中はありがとうございました。



おはようございます。早朝よりお集まりいただきありがとうございます。別院の鯖寿司について、7年前に赴任した際、家に持ち帰り、これは普通のごはんに焼き鯖をのせたのと違うと申し添えて息子が食したところ、これはチーズみたいなやねと一言、酒飲みにはわかる味ということです。

仏教の平和思想、このことを思ったのは、琉球大学の平和教育についてのテレビ番組からでした。

そこでは一冊の古い写真帳、それは米兵が本国に持ち帰ったものでしたが、20年ほど前に返還され大学の教授の手元に入りました。その写真帳にある若い兵士を訪ねて、その親族に会ったところ、23歳の青年兵士で4月2日戦死、沖縄戦が4月1日にはじまったので、わずかに戦争が始まって2日目に亡くなるという悲しいことでした。

また6～7人の高等女学校の生徒の写真では、1人が存命であることが分かった。その方を訪ねた時、同級生の悲慘な亡くなり方と同時に「戦争とはなんと愚かなことや」という一言が印象的な言葉でした。

今、現実にはウクライナとロシアの戦争が続いています。もう一年半余り、最近は戦況がどのように進んでいるのかだけで、戦場での悲慘な状況など気持ちが薄くなっているように感じています。そうした時に今回の「戦争とはなんと愚かなことや」という言葉を改めて知らされたことになります。

このようなことをいろいろ思っている時、私たちは法然上人に思い馳せなければならない。

法然という人は、都から派遣されてきた、今でいう税務署長的な人でその土地の人は自分の領土を少しでも広げ行く末は支配したいと、管理する役人も豪族も同じ感覚でした。



法然上人

法然上人の父親の管理する土地に攻め入ってくると、結局殺されてしまいます。その死ぬ間際にあだを打っては絶体してはならない、自分が仇を打ったらその息子が又仇を、又その息子も仇を打っていくであろう。その繰り返しではいいことはない。お前は多くの命を弔うために比叡山でお坊さんになりなさいと言ひ遣しました。法然上人の生涯を決定づけた言葉でありました。

その言葉によって13歳の時に比叡山に上って正式にお坊さんになって行かれます。

今、現実には起こっている戦争によって多くの物が奪われていく、戦場の兵士だけでなく、一般の畑を耕している人、花を愛でている人などの命が奪われている。今ひしひしと、このままでいいのかという心を持ち続けるということが大事だということです。

このあと戦争が終わった後にロシアの人々、ウクライナの人々にどう接していくのか、お互いに殺し合う世界から、お互いに敬いながら向き合っていく世界が大事

《城端別院の鯖ずし》についてby川合声一君

鯖ずし大好き人間からの一言

虫干し法会の時にふるまわれる鯖のなれずしですが、これは非売品です。別に手にいれたい人は寺務所に鯖ずしの会の受付が設けてあり、年会費を払うと定期的に頂けるといことです。皆さんご存知のように城端別院と井波別院の2か所で漬け込んでおり、城端別院のそれはごはんから発酵されますが、井波別院の鯖ずしは米麹をつかっており、その違いが風味に違いを出すことになります。なれずしというのはご飯から発酵させるのが筋だそうです。滋賀近江の鮒寿司もそのようです。

鯖寿司の漬け込みには地元の鮮魚商の皆さんが行っていますが最近では町の魚屋さんが減少しており維持して行くのも大変だそうです。

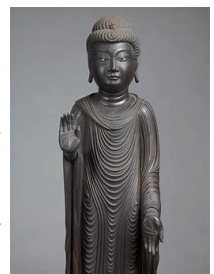
城端別院には鯖寿司を漬け込む為の専用の小屋もあり、そこで何百年にわたって使われている木桶これが発酵過程で大変良い働きをしてくれるとされています。

南砺地方に伝わる夏の鯖寿司これこそ伝統の味であり暑い夏を克服する食べ物として今後も受け継がれていくことをねがっています。

ということを知らされるのでございます。

こういうことの根底には、仏教の思想がなければならぬ。

お釈迦様が出家をなさる時に5人の家来と一緒に出家をされました。そして6年間難行苦行の末、菩提樹でさとりをひらかれた。その根底思想は何か、それは



釈迦如来立像 奈良国立博物館蔵

「我も人も同じ」上に見えるものは一人一人ちがうけれど、見えていないところをみると命は一つであった、下を見ればみな一緒ということに辿り着くのでした。これを「存在の平等性」と私たちは言います。

私たちは生まれながらにして尊いものがあるのではない。生まれながらにして卑しいものもあるのではない。みんな平等である。

一緒に出家した5人は難行苦行を続けていました。そこへお釈迦様がいき、これからは私のことを「仏」(ぶつ)と呼びなさいと言ひ、仏とは、真理に目覚めたもの、今までとは違って真理に目覚めたものは伝えて行く義務があるのだ。元家来であった又同行者を業を共にしたものだから、私と同じ仏道極めた行者として皆さんと接して行きたい。このことからお釈迦様の一番最初の弟子はこの5人であった。と伝えられています。

命は共に同じ、根底には存在の平等性こういうところに目覚めていける、今生きている私たちにも大きな課題が浮かび上がってくるのでなかろうかと思ひます。



年間700回以上の説教が行われている本堂

(今回の会報担当・片山道代)